

経営比較分析表（平成30年度決算）

岐阜県 関ヶ原町

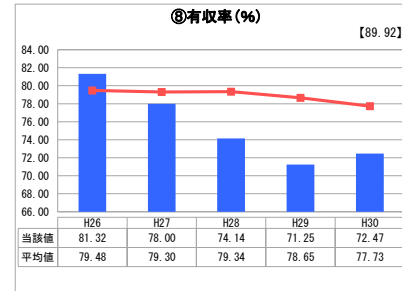
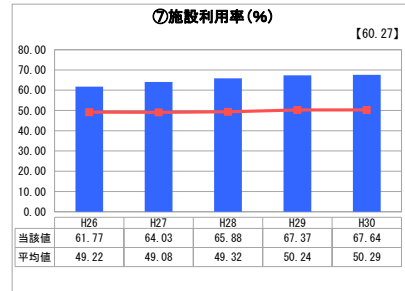
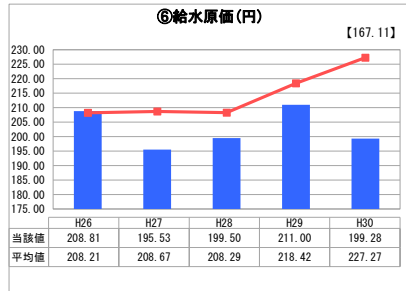
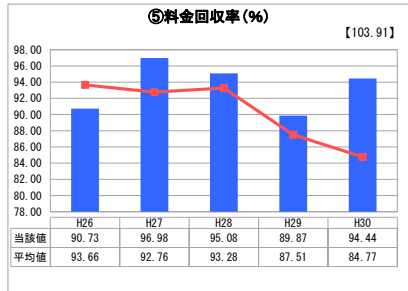
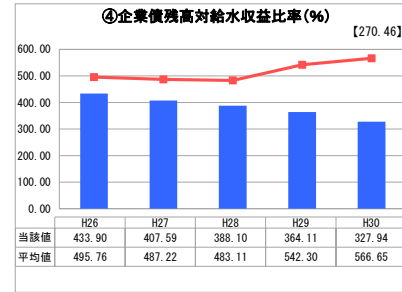
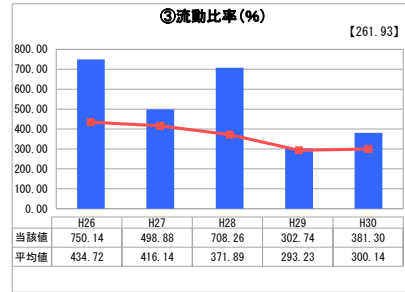
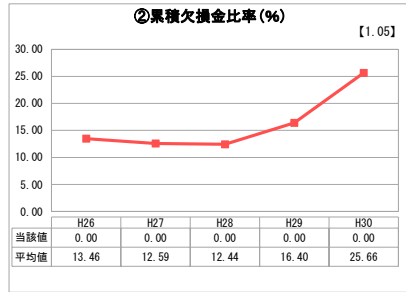
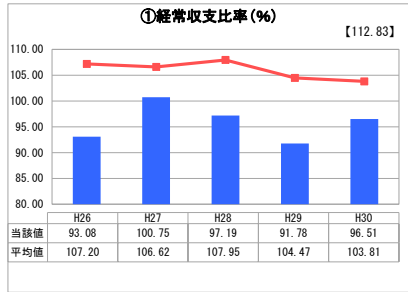
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	70.56	89.49	3,450	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,087	49.28	143.81
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,326	12.00	527.17

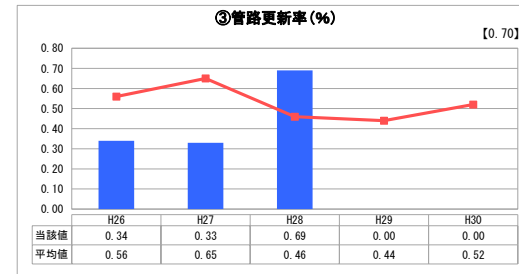
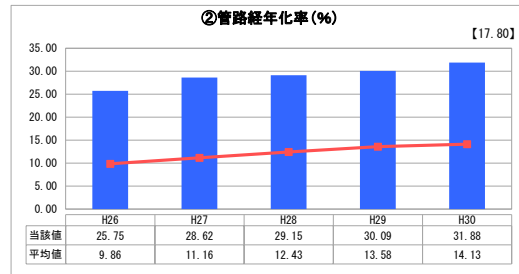
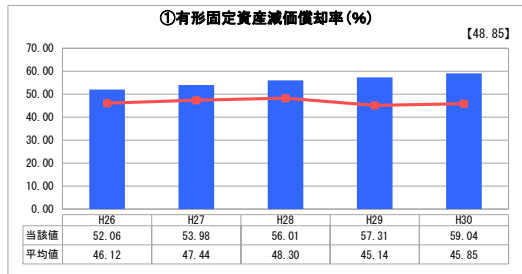
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は昨年度より改善しているが、100%未満であるため、赤字となっている。また、全国平均より低い数値となっている。改善した要因としては、猛暑による夏場の給水収益の増加によるものと考えられる。流動比率は若干増加し、毎年増減はあるが、100%を上回っている。企業債残高対給水収益比率は、企業債の借入を行っていないため、年々減少しているが、拡張及び更新事業を行うにあたり新たな借入が必要となるため、計画的な借入を行う必要がある。料金回収率は昨年度より改善しているが、100%を下回っており、必要な費用を料金収入で賄うことが出来ないことを示している。今後も施設の老朽化により維持管理費が増加すると思われる。計画的な施設更新を行い維持管理費の増加の削減に努めていきたいが、料金改定も今後検討していく必要がある。給水原価は昨年度より減少した。これは夏場の給水量の増加が要因と思われる。施設利用率は、ほぼ例年並みで、類似団体よりも高い水準にあるため、施設の効率的な運用が出来ている。有収率は前年度までは年々低下していたが、今年は若干の改善が見られた。改善のため、漏水調査による漏水箇所の修繕、老朽管の更新を進める必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率と管路経年化率は年々増加しており、更新が必要な施設、管路が増加している。類似団体と比較しても有形固定資産減価償却率、管路経年化率とも高く、類似団体より施設、管路の老朽化が進んでおり、特に管路の老朽化が進んでいる。類似団体においては、管路更新が進められているが、本町においては、第4次拡張事業の管路整備を進めており、老朽管の更新が進んでおらず、この2年間は管路の更新が出来ていない。

全体総括

今年度も昨年度に引き続き経常収支が赤字となった。昨年度よりは改善したが、今後も給水収益の減少及び維持管理費の増加により収支の改善は見込めないと思われる。また、第4次拡張事業を推進するため、施設更新が進まない状況にある。今後は、計画的な施設更新を進めていく必要がある。また、安定経営に向け、今後は、料金改定も検討していく必要があると考える。